



第72回 九州・沖縄生殖医学会

学術集会長

宮本 新吾

福岡大学医学部産婦人科学教室

● 第72回 九州・沖縄生殖医学会 ●

日 時：平成27年 7 月26日(日)

評 議 員 会 8時45分～9時15分

総 会 9時15分～9時25分

会 場：**アクロス福岡**

福岡市中央区天神1丁目1番1号

TEL (092)725-9113

学術集会長 **宮本 新吾**

(福岡大学医学部産婦人科学教室)

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号

TEL 092-801-1011

学術集会長挨拶

第72回九州・沖縄生殖医学会の 開催にあたって



福岡大学医学部産婦人科学教室

宮本 新吾

第72回日本生殖医学会九州・沖縄支部会は、時期も会場も例年と異なり、盛夏にアクロス福岡で開催されることとなりました。

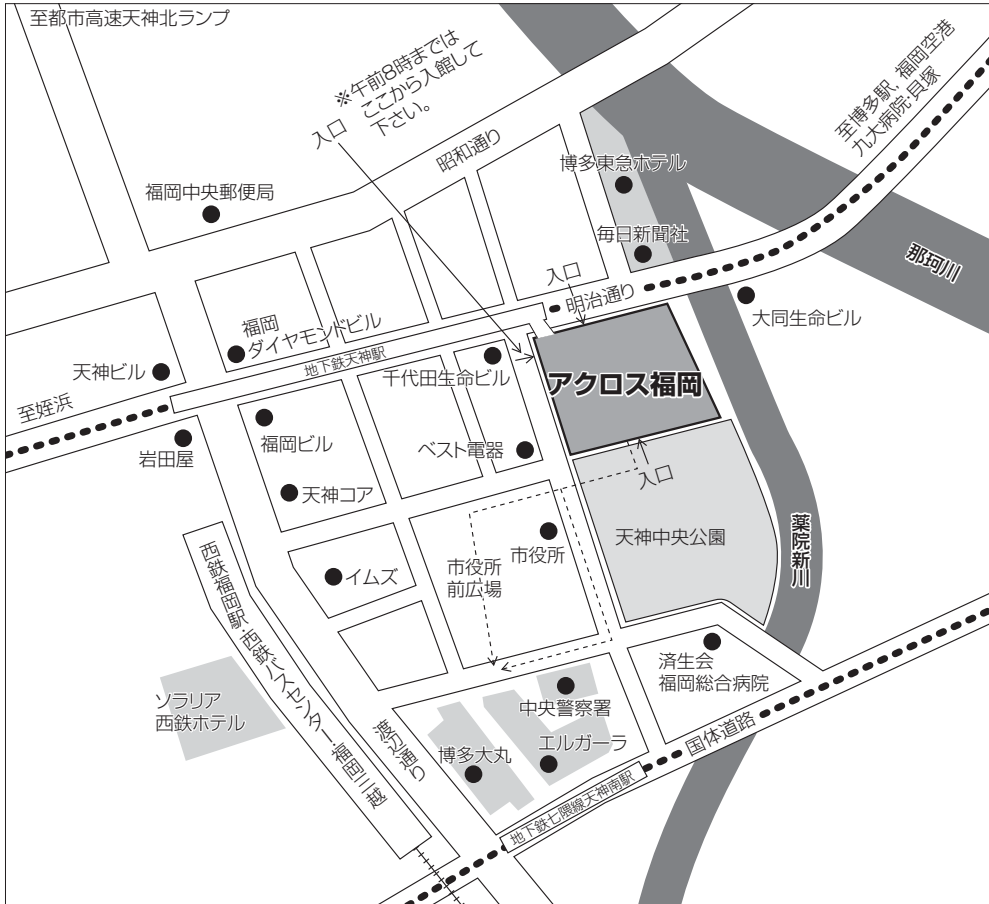
九州・沖縄で、生殖医療に携わっておられる皆様から貴重なご講演を頂き、近未来の生殖医療の発展に向け、創薬開発を含めた新たな研究領域の開拓を目指した学会のはじまりとなればと考えております。

今回はより多く発表していただけるように、44題を口演発表と致しました。このため、9題のポスター発表は午後1時から、口演と平行させていただき、タイトなスケジュールとなります。皆様のご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

ランチョンセミナーも例年と趣向を変えて、ニプロ(株)、富士製薬工業(株)の共催で、元吉本芸人で現放送作家、日本初の漫才セミナー講師 W マコトのお二人に、医療コミュニケーションについてご講演をいただく事になりました。「正確な内容を患者さんにどう伝えたら良いのか」は日常的な課題となっています。これまでの経験を踏まえてコミュニケーションスキルを学ぶことは、必ずや明日の診療に役立ち、皆様に喜んでいただけると期待しています。

最後に、夏ふぐなど夏の食材も美味しい福岡の地で、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

交通案内



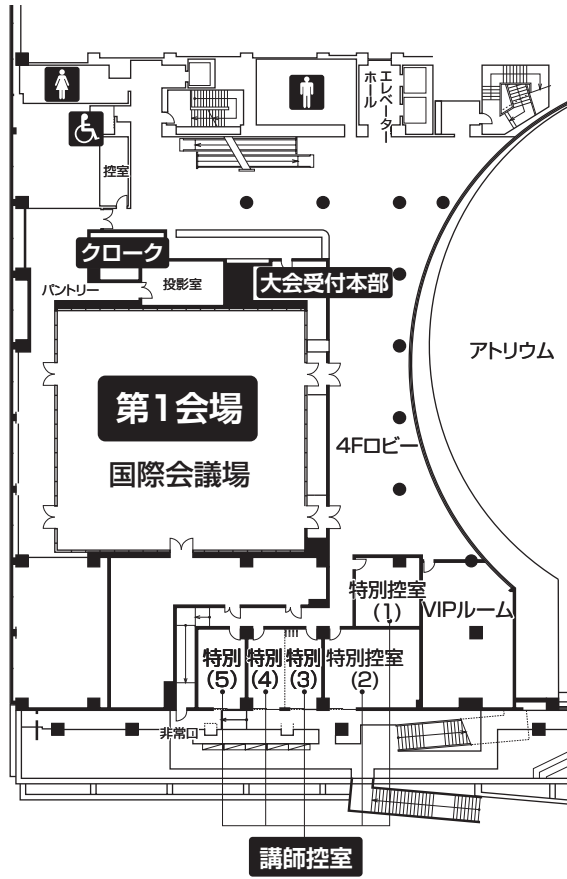
- 福岡空港から天神まで地下鉄で11分
- JR 博多駅から天神まで地下鉄で5分
- 西鉄福岡駅から徒歩10分
- 地下鉄天神駅から徒歩2分

※地下鉄天神駅16番出口から、アクロス福岡地下2階へ直接入館できます。

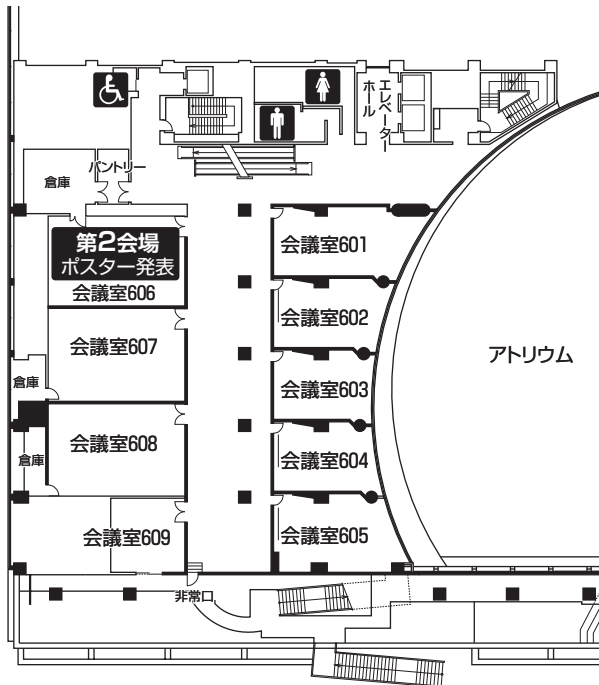
※地下3階に時間貸の有料駐車場(約100台分)があります。(営業時間 7:00～22:00)
入口はベスト電器側です。

会場案内

4F



6F



第72回九州・沖縄生殖医学会 プログラム

日 時：2015年7月26日(日) 8時45分～

場 所：アクロス福岡

評議員会 8:45～9:15

総 会 9:15～9:25

開 会 9:25～9:30

学術集会長 宮本 新吾(福岡大学医学部産婦人科学教室)

第1群 [内膜症・異所性妊娠・子宮奇形] 9:30～10:10

座長：銘苺 桂子(琉球大学医学部附属病院 産科婦人科)

O-01 排卵周辺期に褐色帯下を伴う子宮内膜症4症例の検討

○中島 章、瑞慶覧 美穂、寺田 陽子、高山 尚子、石垣 敬子、神山 茂、
徳永 義光、佐久本 哲郎

医療法人杏月会 空の森クリニック

O-02 凍結融解胚移植後の頸管妊娠に対し1回MTX療法が奏効し 子宮温存し得た1症例

○小山 伸夫、中村 千夏、山口 ゆうき、宮本 恵里、江崎 寛美、
関岡 友里恵、上田 真理奈、山田 耕平、池田 早希、木下 和雄

社団法人聖命愛会 ART女性クリニック

O-03 ART周期に発生した子宮創部癒痕妊娠の2例

○石松 正也

石松ウイメンズクリニック

O-04 当科における子宮鏡下中隔切除術の検討

○荒木 裕之、河野 通晴、妹尾 悠、北島 百合子、吉竹 朋子、藤下 晃

済生会長崎病院

O-05 不育症・不妊症に対する子宮奇形のスクリーニングおよび診断における 3次元超音波の有用性

○永田 典子、井上 統夫、北島 道夫、谷口 憲、村上 直子、平木 宏一、
増崎 英明

長崎大学医学部産婦人科

第2群 [腫瘍・その他] 10:10～10:42

座長：北島 道夫(長崎大学医学部 産婦人科)

O-06 子宮動静脈奇形(arteriovenous malformation:AVM)に対する待機療法の可能性について

○銘苅 桂子、宜保 敬也、長田 千夏、金城 唯、宮城 真帆、赤嶺 こずえ、平敷 千晶、青木 陽一

琉球大学医学部附属病院産婦人科

O-07 不妊治療中に疑うべき悪性疾患の2症例

○伊東 裕子、城田 京子、夏秋 伸平、藤田 みずき、深川 怜史、宮本 新吾
福岡大学 医学部 産婦人科

O-08 当院における若年がん患者のがん生殖医療の現況

○大石 博子、中原 一成、道脇 理恵、前原 都、竹内 麗子、藤原 ありさ、内田 聡子、上岡 陽亮、井上 善仁

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院

O-09 マウスを用いた妊孕能に対するシクロフォスファミド(CPA)投与の影響

○小池 恵¹⁾、熊迫 陽子¹⁾、大津 英子¹⁾、河邊 史子¹⁾、荒木 康久²⁾、荒木 泰行²⁾、宇津宮 隆史¹⁾

1)セント・ルカ産婦人科、2)高度生殖医療技術研究所

第3群 [男性不妊・精子1] 10:42～11:14

座長：横山 裕(医療法人仁愛会 横山病院)

O-10 精巣網拡張の臨床的意義：FSHが上昇し造精機能低下が示唆された症例での検討

○成吉 昌一¹⁾、中野 和馬²⁾、庄 武彦¹⁾、助川 玄²⁾、辻 祐治¹⁾²⁾

1)天神つじクリニック、2)恵比寿つじクリニック

O-11 40歳以上の不妊治療患者に対する媒精方法の選択

○邑上 沙瑠子、遊木 靖人、佐多 良章、永野 明子、松木 祐枝、田尻 翔太、岩政 仁

ソフィア愛育会 ソフィアレディースクリニック水道町

O-12 男性の主観的ストレスからみた性的欲求と性生活の関係—初診時間診票と内分泌、精液検査から—

○稗田 真由美、河邊 史子、宇津宮 隆史

セント・ルカ産婦人科

O-13 当院における男性不妊症治療での麻酔方法の検討

○濱口 綾、志賀 涼子、松本 千恵美、松岡 加奈絵、曾我部 つぐみ、
南 智美、緒方 妙子、白柿 ひろみ、田中 威づみ、山口 貴史、
御木 多美登、伊熊 慎一郎、永吉 基、田中 温
セントマザー産婦人科医院

第4群 [男性不妊・精子2] 11:14～11:46

座長：田中 温（セントマザー産婦人科医院）

O-14 顕微授精における精子鞭毛波形に基づいた精子選択基準の検討

○河邊 博康¹⁾、河邊 史子²⁾、宇津宮 隆史²⁾
1)日本文理大学工学部航空宇宙工学科、2)セント・ルカ産婦人科

O-15 精子自動分析装置による精子運動能の評価とc-IVFの成績に関する検討

○北上 茂樹、杉岡 美智代、植村 智子、白木 亜紀子、古賀 剛、古賀 文敏
古賀文敏ウイメンズクリニック

O-16 ビタミンCラジカルによる新しい精子機能評価

○甲斐 由布子、西田 欣弘、楢原 久司
大分大学医学部産科婦人科

O-17 男性不妊症における顕微鏡下精索静脈瘤手術の治療成績

○横山 裕
医療法人仁愛会 横山病院

ランチオンセミナー 12:00～12:50

座長：城田 京子（福岡大学医学部 産婦人科）

「笑いの現場から学ぶ！

心を支えるコミュニケーション『なんでやねん力』

中山 真氏 / 中原 誠氏 元お笑い芸人・現放送作家
吉本興業のコミュニケーション笑い研修プログラム認定講師
株式会社 WMcommons

共催：ニプロ株式会社
富士製薬工業株式会社

O-36 多核割球胚の培養成績調査と妊孕性の検討

○宮崎 麻美、西山 和加子、山本 新吾、藤田 あずさ、小林 倫子、
古賀 美佳、佐護 中、有馬 薫、野見山 真理、小島 加代子、岩坂 剛
医療法人社団高邦会 高木病院 不妊センター

O-37 多核胚における胚盤胞発育能と着床能の検討

○江口 明子、末永 めぐみ、篠原 真理子、川崎 裕美、松下 富士代、
山口 弓穂、伊藤 正信、松田 和洋
松田ウイメンズクリニック

第10群 [ART(胚培養)] 15:35～15:59

座長：宇津宮 隆史(セント・ルカ産婦人科)

O-38 凍結融解胚移植周期における胚移植用培地としてのヒアルロン酸の効果

○木下 茜、泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、竹原 侑希、早田 瞳、
荒牧 夏美、久原 早織、本庄 考、詠田 由美
アイブイエフ詠田クリニック

O-39 ヒト胚の体外培養におけるヒアルロン酸添加の有用性

○久原 早織、泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、竹原 侑希、早田 瞳、
木下 茜、荒牧 夏美、本庄 考、詠田 由美
アイブイエフ詠田クリニック

O-40 2社の single culture medium を用いた培養成績の比較検討

○荒牧 夏美、泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、竹原 侑希、早田 瞳、
木下 茜、久原 早織、本庄 考、詠田 由美
アイブイエフ詠田クリニック

第11群 [手術] 15:59～16:31

座長：河野 康志(大分大学医学部 産科婦人科)

O-41 腹腔鏡下子宮内膜症性卵巢嚢胞エタノール固定術の再評価

○河邊 史子、長木 美幸、越光 直子、宇津宮 隆史
セント・ルカ産婦人科

O-42 腹腔鏡が卵巣予備能に与える影響：前方視的研究

○長木 美幸、熊迫 陽子、大津 英子、河邊 史子、宇津宮 隆史
セント・ルカ産婦人科

O-43 PCOS に対する Laparoscopic ovarian drilling (LOD) の有用性

○山口 貴史¹⁾、田中 威づみ¹⁾、御木 多美登¹⁾、伊熊 慎一郎¹⁾、永吉 基¹⁾、
田中 温¹⁾、竹田 省²⁾
1) セントマザー産婦人科医院、2) 順天堂大学医学部産科婦人科学

O-44 卵管通過障害を治療する子宮鏡補助下卵管鏡下形成術の導入

○伊熊 慎一郎¹⁾、田中 威づみ¹⁾、山口 貴史¹⁾、御木 多美登¹⁾、永吉 基¹⁾、
田中 温¹⁾、竹田 省²⁾
1) セントマザー産婦人科医院、2) 順天堂大学医学部産科婦人科学

閉 会 16:31～

九州・沖縄生殖医学会会長挨拶

楢原 久司(大分大学医学部産科婦人科 教授)

次期学術集会長挨拶

学術集会長挨拶

宮本 新吾(福岡大学医学部産科婦人科学教室)

[ポスター1] 13:00～13:24

座長：伊東 裕子(福岡大学医学部 産科婦人科)

P-01 当院でARTにより出生した現在16～18歳児の調査報告と今後の課題

○河野 照美、村上 貴美子、久保島 美佳、井上 静、金子 清美、
徳永 美樹、園田 敦子、大塚 未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志
蔵本ウイメンズクリニック

P-02 採卵決定時のプロゲステロン(P4)値についての検討

○古恵良 桂子、梶原 有美、渡辺 ナツ子、永浦 ひとみ、酒井 あゆみ、
結城 裕之
中央レディースクリニック

P-03 腎後性腎不全を呈したOHSSの1例

○山田 美樹
長崎大学 医学部 産婦人科

P-04 不妊症患者の25-OH Vitamin D 欠乏症

○瑞慶覧 美穂、中島 章、寺田 陽子、石垣 敬子、高山 尚子、神山 茂、
徳永 義光、佐久本 哲郎
医療法人杏月会 空の森クリニック

[ポスター2] 13:00～13:30

座長：沖 利通(鹿児島大学医学部 産科婦人科)

P-05 当科における医原性卵巣機能不全に対する妊孕性温存の現況

○村上 直子、北島 道夫、谷口 憲、井上 統夫、平木 宏一、カーン カレク、
金内 優典、三浦 清徳、増崎 英明
長崎大学 医学部 産婦人科

P-06 当科における妊孕性温存を目的とした精子凍結保存の現状

○宜保 敬也、銘荊 桂子、長田 千夏、金城 唯、宮城 真帆、赤嶺 こずえ、
平敷 千晶、青木 陽一
琉球大学 医学部付属病院 産科婦人科

P-07 当院における若年がん患者に対する妊孕性温存法としての
卵子、胚凍結についての検討

○宮城 真帆、銘苅 桂子、宜保 敬也、長田 千夏、金城 唯、赤嶺 こずえ、
平敷 千晶、青木 陽一

琉球大学医学部附属病院産婦人科

P-08 早発卵巣不全(POF)と診断された患者への看護師の関わり

○日高 清美、外島 あゆみ、今井 たかね、山崎 真子、谷口 美樹、
春山 智恵美、南 さやか、吉永 明美、伊藤 正信、松田 和洋

松田ウイメンズクリニック

P-09 不妊治療により、ダウン症を含む双児を出産した患者の
カウンセリング2事例の検討

○吉永 明美、日高 清美、外島 あゆみ、今井 たかね、山崎 真子、
谷口 美樹、増田 智恵美、南 さやか、伊藤 正信、松田 和洋

松田ウイメンズクリニック

一 般 演 題

O-01 排卵周辺期に褐色帯下を伴う子宮内膜症4症例の検討

○中島 章、瑞慶覧 美穂、寺田 陽子、高山 尚子、石垣 敬子、神山 茂、徳永 義光、佐久本 哲郎
医療法人杏月会 空の森クリニック

【背景】 排卵期に褐色帯下を伴う症例を時折認めますが、今回卵管から子宮への流入液が原因と考えられる4症例を経験した。

【症例】

症例1: 以前に子宮内膜症性を指摘され、30歳で初診時に37と34mmの二房性の左付属器腫瘍を認めた、月経終了後も褐色帯下が持続し、MRIで子宮内膜症性嚢胞、左卵管水腫が疑われ、腹腔鏡下左卵管切除を実施し症状消失した。術後2周期目に自然妊娠した。

症例2: 28歳で初診時、左卵巣子宮内膜症性嚢胞を認めた。過長月経を毎周期認めたが、経過観察下にタイミング、人工授精を実施後、腹腔鏡手術を実施した。左卵管の肥厚および卵管留血腫を認め、左卵管切除を実施。術後3周期目に自然妊娠した。

症例3: 前医でタイミング法、腹腔鏡手術、人工授精を実施され、39歳で当院初診。両側卵巣子宮内膜症性嚢胞を認めた。HSGで卵管疎通性は確認したが、排卵期に褐色帯下が出現し、子宮鏡で両側卵管口から褐色帯下の流入を認めた。

症例4: 子宮内膜症性嚢胞による2度の手術既往があり、前医で採卵を3周期実施後に34歳で当院初診。当院でもICSIを実施し全胚凍結した。排卵期に褐色帯下が出現し、子宮鏡で左卵管口からの流入液を認めた。腹腔鏡下に起始部切断術を実施後、褐色帯下は消失し、胚移植を実施した。

【結語】 子宮内膜症患者では褐色の卵管液逆流を認める事がある。子宮鏡はその診断に有用であり、卵管手術は着床環境を改善する可能性があると考えられる。

O-02 凍結融解胚移植後の頸管妊娠に対し1回MTX療法が奏効し子宮温存し得た1症例

○小山 伸夫、中村 千夏、山口 ゆうき、宮本 恵里、江崎 寛美、関岡 友里恵、上田 真理奈、山田 耕平、池田 早希、木下 和雄
社団法人聖命愛会 ART女性クリニック

【緒言】 HRT周期にて凍結融解胚移植後、稀な頸管妊娠を発症し、MTX療法にて保存的に治療可能であった1症例を経験したので報告する。

【症例】 36歳、未妊。挙児希望にて当院を受診された。多発性子宮筋腫を認めるも子宮内膜への圧排所見なく、一般不妊検査も異常なかった。タイミング療法後IUI5回実施した。その後、ARTにステップアップした。HRT周期にて凍結融解胚移植1個(5AA)し、胚移植後10日目で尿妊娠反応陽性となる。妊娠5週1日から性器出血が出現し、妊娠6週4日になっても子宮内に胎嚢は認めず、血中hCG16,860mIU/mlと高値であった。妊娠6週6日性器出血が多くなり、下腹部痛も増強した。子宮頸管内に卵黄嚢を含んだ胎嚢を認めた。頸管妊娠の診断にて、即日入院後、妊娠7週0日MTX85mgIVした。その後、血中hCGは順調に減少し、子宮頸管は縮小し、胎嚢も消失した。MTX投与3週6日後に子宮頸管を搔爬するも組織学的に絨毛は認めなかった。

【結語】 今回凍結融解胚移植後に稀な頸管妊娠を発症した症例を経験した。頸管妊娠の治療のガイドラインはなく、挙児希望であっても状況によっては子宮摘出を要する場合もある。今回、挙児希望があるため、保存的に1回MTX療法を行い、奏効し子宮温存し得た。ARTによって頸管妊娠は増加するとの報告もあり、ARTを行う施設は頸管妊娠の発症について留意し、発症した場合に備えて自設のガイドラインを作っておくべきである。

O-43 PCOS に対する Laparoscopic ovarian drilling (LOD) の有用性

○山口 貴史¹⁾、田中 威づみ¹⁾、御木 多美登¹⁾、
伊熊 慎一郎¹⁾、永吉 基¹⁾、田中 温¹⁾、
竹田 省²⁾

1) セントマザー産婦人科医院、
2) 順天堂大学医学部産科婦人科学

【目的】 Polycystic ovary syndrome (PCOS) は、難治性不妊であり、排卵障害や排卵遅延による卵の質の低下を認め、また排卵誘発剤使用時に卵巣過剰刺激症候群 (OHSS) の発症や多胎妊娠の発生などを起こしやすい。一方、腹腔鏡下卵巣多孔術 (Laparoscopic ovarian drilling : LOD) は手術侵襲が大きい反面これらの合併を回避できるとされ、我々は PCOS 合併不妊症例に対して腹腔鏡下手術が有効か再検討した。

【方法】 2012年1月から2015年4月までの間に、不妊症を訴える PCOS の症例に LOD を施行した45症例を検討した。手術は3孔式、closed 法でアプローチし、drilling は電気メス (モノポーラー) にて両側卵巣表面に小孔を10~20箇所、切開または凝固モードにてなるべく均等になるように行なった。

【結果】 平均年齢は30歳、LOD 施行後、LH 値は平均9.2pg/ml、FSH は平均12.1pg/mlであった。これらの症例中 ART 施行症例については、受精率77.8% (35/45)、分割率60% (27/45)、妊娠率71.1% (32/45)、流産率13.3% (6/45)であった。妊娠に至らなかった症例においても比較的多くの症例で排卵の改善を認めた。

【考察】 LOD は有効に自然排卵を促すことが可能であった。また OHSS 発症は少なく、流産率も低かった。今後も PCOS において、クロミフェンなどの排卵誘発無効症例に対して、LOD の更なる検討をしていく必要がある。

O-44 卵管通過障害を治療する子宮鏡補助下卵管鏡下形成術の導入

○伊熊 慎一郎¹⁾、田中 威づみ¹⁾、山口 貴史¹⁾、
御木 多美登¹⁾、永吉 基¹⁾、田中 温¹⁾、
竹田 省²⁾

1) セントマザー産婦人科医院、
2) 順天堂大学医学部産科婦人科学

【目的】 卵管通過障害の治療法として卵管鏡下卵管形成術が有用と考えているが、卵管鏡の映像が不鮮明でカテーテルが卵管内に進入したという客観的な評価が困難な症例や腹腔鏡下に実施した際、カテーテルの先端が卵管開口部で旋回し卵管内に進入していない症例を経験した。これらの問題点に対し子宮鏡下に閉塞卵管の開口部を確認しながら卵管鏡下卵管形成術を施行する手法を導入したので報告する。

【方法】 2014年12月から2015年3月、子宮卵管造影検査により両側卵管通過障害 (両側閉塞) または片側卵管通過障害 (片側閉塞) と診断した12症例、閉塞卵管数20卵管を対象とした。両側閉塞は8例、片側閉塞は4例であった。手術時平均年齢33.5歳 (24-40歳)、平均不妊期間4.3年 (2-9年)、平均 BMI 21.5、クラミジア抗体 IgG または IgA 陽性は両側閉塞3例であった。PENTAX 社製子宮鏡 EHY-110s を用いて子宮内を観察し両側の卵管開口部を確認した後、テルモ社製の FT カテーテルキット (FT-LE06GA) を用いて卵管開通を試みた。術後1か月後に子宮卵管造影検査を行い、卵管再疎通の有無の評価を行った。

【結果】 両側閉塞例のうち再疎通を認めた症例は8例中5例 (62.5%)。片側閉塞例のうち両側再疎通を認めた症例は4例中2例 (50.0%) であった。20卵管中11卵管 (55.0%) で再疎通を認めた。

【結論】 本法施行後に卵管再疎通例を認めており、卵管通過障害に対する新しい治療法として有用と考えられた。

ポスター

P-01 当院で ART により出生した 現在 16～18 歳児の調査報告と 今後の課題

○河野 照美、村上 貴美子、久保島 美佳、
井上 静、金子 清美、徳永 美樹、園田 敦子、
大塚 未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志
蔵本ウイメンズクリニック

【目的】 ART 児の成長発達上の情報は重要であるが、長期的な追跡調査においてはまだ課題が残っている。そこで、今回は当院開院当初に ART を行い出産した 16～18 歳児の親へ、現在までの成長過程や発育上の異常の有無、ART の影響を意識したか等を合わせて調べた。

【対象・方法】 1996 年～1997 年に出生報告のあった患者 130 名に、調査協力の意思と住所確認のため電話連絡を行い、連絡のとれた 54 名に対して無記名回答の郵送によるアンケートを実施した。

【結果】 29 名(内 1 組双胎)より回答を得た(回収率 53.7%)。6 歳までの身体発育値は 2000 年厚生労働省乳幼児身体発育調査結果のほぼ正常範囲内であった。運動機能発達は「はいはい」「ねがえり」「つかまり立ち」は 1 ヶ月ほど遅い傾向がみられた。出生時の異常は大動脈縮窄症 1 名。成長過程で認められた疾患は 4 件で 1 歳左腋下リンパ節腫瘍、6 歳成長ホルモン分泌不全低身長、8 歳 ADHD(注意欠陥・多動性障害)等が認められた。身体発育や疾患等に関する不安は 17 件、その中で ART 治療を関係づけて考えたのは 7 件であった。ART 治療の告知については「話した」8 名、「将来話そうと思う」6 名であった。

【考察】 今回の調査対象の人数は少ないものの、16～18 歳の成長過程の身体発育や運動機能および疾患と親の思いが明らかになったが、アンケート配布・回収出来なかった児が多く今後検討していきたい。

P-02 採卵決定時のプロゲステロン (P4) 値についての検討

○古恵良 桂子、梶原 有美、渡辺 ナツ子、
永浦 ひとみ、酒井 あゆみ、結城 裕之
中央レディスクリニック

【目的】 ART 採卵決定時の P4 値が上昇している周期では、新鮮胚移植を避ける方がよいとされている。当院での状況について検討を行った。

【対象】 2010 年 1 月～2015 年 2 月に、当院で short 法または long 法で採卵し、胚移植を行った ART 患者。採卵決定時の E2 \geq 4000 (pg/ml) または E2 $<$ 1000 の症例は除外した。

【結果】

1. 新鮮胚移植を行った患者で、P4 $<$ 1.0 (ng/ml) の周期の妊娠率は 35.2% (273/775)、P4 \geq 1.0 の周期の妊娠率は 32.4% (22/68) で、両群間に有意差を認めなかった。
2. 採卵決定時の P4 \geq 1.0 であった患者の凍結胚移植において、自然周期での妊娠率は 44.7% (34/76)、HRT 周期での妊娠率は 39.3% (11/28) で、両群間に有意差を認めなかった。
3. 採卵決定時の P4 \geq 1.0 で自然周期での凍結胚移植を試みた患者 5 名の排卵前 P4 値を測定したところ、1 名の P4 \geq 1.0 であり HRT 周期での凍結胚移植に変更した。
4. 採卵決定時の P4/E2 が高過ぎると新鮮胚移植での妊娠率が不良との報告がある。当院での新鮮胚移植において、P4 (ng/ml) \times 1000/E2 (pg/ml) \geq 0.15 の周期の妊娠率は 33.5% (246/734) で、P4 \times 1000/E2 $<$ 0.15 の周期の妊娠率 45.0% (49/109) に対し、有意に低かった。

【考察】 採卵決定時の P4 値と妊娠率について、文献的考察も含めて検討する。

P-07 当院における若年がん患者に対する妊孕性温存法としての卵子、胚凍結についての検討

○宮城 真帆、銘苅 桂子、宜保 敬也、長田 千夏、金城 唯、赤嶺 こずえ、平敷 千晶、青木 陽一
琉球大学医学部附属病院産婦人科

【目的】 近年、若年がん患者のQOL向上の為、治療前の妊孕性温存に対する対策が求められている。当院で経験した若年がん患者の卵子・胚凍結症例を検討し、その現状と課題について考察した。

【対象、方法】 2012年10月～2015年4月の期間、当科で経験した卵子凍結6例、胚凍結5例を対象とし、臨床背景、採卵・凍結転帰について診療録をもとに後方視的に検討した。卵子・胚凍結は、Vitrification法で行い、乳癌症例は、アロマターゼ阻害剤を併用した。未受精卵子の採取・凍結・保存においては日本産婦人科学会ガイドラインに則り、本学の倫理審査会の承認を得て、文書同意の得られた方に実施した。

【成績】 患者の平均年齢は30.2歳(16～41歳)で、原疾患の内訳は乳癌7例、リンパ腫2例、脳腫瘍1例、悪性褐色細胞腫1例であった。卵子凍結例は6例中3例がカウンセリング後採卵を希望せず、4例は化学療法開始後であった。平均卵子凍結数は7.7個(3～16個)、平均胚凍結数は3個(0～7個)であった。化学療法施行後症例の採卵数中央値は5個(4～21個)で、AMHの平均値は0.47(0.35～0.59ng/ml)であった。卵巣刺激や採卵手術による合併症は認めなかった。現在全症例が原疾患治療中であり、融解胚移植に到達していない。

【考察】 化学療法後の症例は卵巣機能低下により採卵数は少なかった。採卵に伴う合併症は認めなかったが、妊娠分娩転帰については現時点で評価不可能であり、現状を十分説明した上で症例を重ねる必要がある。

P-08 早発卵巣不全(POF)と診断された患者への看護師の関わり

○日高 清美、外島 あゆみ、今井 たかね、山崎 真子、谷口 美樹、春山 智恵美、南 さやか、吉永 明美、伊藤 正信、松田 和洋
松田ウイメンズクリニック

【目的】 早発卵巣不全(以下POF)は、妊娠は難しく治療は長期化し患者の心理的問題が生じるといわれている。

当院でも、POFの診断を受け治療が長期化している患者がいる。それらの患者に対し精神的支援の重要性を感じながら関わるきっかけや介入の仕方が難しいため看護師の関わりが少ないのが現状である。

今回POFと診断を受け治療中の患者へ面談及びアンケートを行い患者の心理を分析し看護のあり方を検討した。

【対象および方法】 POFと診断され治療中の11名に対して、2014年5月～8月の期間に面談とアンケート調査を実施。

【結果および考察】 POFと診断を告げられた時は「ショック」や「辛い」などの心理的状態であることが明らかになった。またPOFを知らない患者がいることや理解の程度に個人差があることも分かった。

診断時の正しい情報提供がその人らしい治療選択につながると考える。また治療が長期化し様々な心理的・社会的問題がおこる可能性を理解してもらうことも必要である。

以上を踏まえてFSHが高くスケジュールに入れない周期や採卵キャンセル時に個別に面談を行い患者の気持ちに寄り添い思いを聴くようにした。またPOFに関するパンフレットを作成し現状を理解してもらう手助けとした。

このような関わりを継続することで患者自身が治療を振り返り自分の状況を受け止め納得して治療へ向き合えるようになると思う。更に夫の理解や考えを把握することにも繋げていきたい。

P-09 不妊治療により、ダウン症を含む 双児を出産した患者の カウンセリング2事例の検討

○吉永 明美、日高 清美、外島 あゆみ、
今井 たかね、山崎 真子、谷口 美樹、
増田 智恵美、南 さやか、伊藤 正信、
松田 和洋

松田ウイメンズクリニック

今回、不妊治療の結果、双児を妊娠し、1児がダウン症であった2例を経験したので報告する。

患者は、いずれも30代であり、強い希望により、2個の凍結融解胚を移植し、双児を妊娠出産した。

1例目は、妊娠中、双児の親になることへの責任感から不安が増大し、カウンセリングを希望。さらに1児にダブルバブルサインが出現したため、ネットで調べ、障害児の可能性を危惧した。出産後は、ダウン症を受け入れられず、ストレス反応が身体化し、NICUへの面会の足も遠のいた。不妊治療を後悔することも語られた。

2例目は、フォローアップ外来で、双児の妊娠、出産、育児の困難さや1児がダウン症であるために双児の成長に差が出てくることへの困惑があり、不妊治療中の理想と実際の育児の現実についてのギャップについて語られた。

2事例より、ダウン症児を含む双児を妊娠出産したストレス、障害受容の過程をふまえ、心理的機序について検討した。心理的機序の共通点として、凍結胚の廃棄は罪悪感があること、双児のリスクを説明されるも、自分の事として考えづらいこと、妊娠出産は、思い描いていたものとの相違があり、出産後は、1児がダウン症であることに衝撃を受け、成長の差が生じる不安感があった。さらに、不妊治療への後悔の念が生じた。

生殖心理カウンセラーとして、重要なことは、周産期の心理的サポートの機会を見極め、障害を受容できない母親を受容する視座である。

第72回九州・沖縄生殖医学会

学術集会長：宮本 新吾

発行者：福岡大学医学部産婦人科学教室
〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
TEL：092-801-1011

事務局：大分大学医学部産科婦人科学教室
〒879-5593 大分県由布市狭間町医大ヶ丘1-1
TEL：097-586-5922 FAX：097-586-6687

出版： 株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025